

美しいまちづくりのために

かなざわ 景観だより

LANDSCAPE NEWS OF KANAZAWA

第9号

平成十四年(二〇〇二)三月発行
企画編集：景観だより編集委員会
発行：金沢市広域「工目」一
金沢市建設部まちづくり課
〒920-8501 金沢市本町二丁目二番地
TEL:076-231-1364
E-mail: machinumi@city.kanazawa.lshkawa.jp



石坂西会館前
二口邦夫(59歳)
金沢市野町

野町に150mほど残る茶屋街の伝統的外観を保全し、まちとしての賑わいを創出することを目標に、平成13年8月、まちづくり協定を締結しました。まちの統一性、連続性に配慮し、金沢の情緒を色濃く感じられるまちを創出するという方針のもと、対象地域の住民と町会を中心となり、2月から8月にかけて十数回の会合を持ち、話し合いました。

位置し、ひがし茶屋街、主計町と並ぶ金沢の三茶屋街の一つです。格子戸の二階家屋が軒を連ね、昔ながらの佇まいを残しています。昭和初期に建てられた料亭組合の建物も、芸妓さんのお稽古場として使われています。大正から昭和初期にかけては、茶屋が100軒程も並び、大いに賑わったとも言われます。今では7軒の茶屋が残る、料亭など数軒が軒を並べ、暮れ時にもなる茶屋街から三味線と太鼓の音が聞こえてきます。

「町家(まちや)」とは、かつて商人や職人といった町人が住んだ建物のことです。藩政期には通りを歩く武士を見下ろすことがないようにと、通りに面して居室を設けることは禁じられていました。そのため、古い町家ほど軒の低いものが多く見られます。



金沢市西茶屋資料館

び、大いに賑わったとも言われます。今では7軒の茶屋が残る、料亭など数軒が軒を並べ、暮れ時にもなる茶屋街から三味線と太鼓の音が聞こえてきます。長い歴史を持つ町並みならではの雰囲気や後世に残したいという思いから、また、観光客や市民が楽しみながらそぞろ歩けるようなまちにしたいという住民の強い意志から、今回の協定締結に至りました。

残したい風情あるまちなみ

まちづくり協定を締結——にし茶屋街

格子戸の家々が並び、平成6年には石畳の舗道やガス灯も整備され、明るく粋な通りとなつたにし茶屋街。昨年8月、そんな風情あるまちなみをいつまでも残していこうと、住民によって、まちづくり協定が締結されました。

にし茶屋街 (にしちやがい)

歴史的な風情が残る金沢のまちなみ。その中でも、市内に3ヶ所ある「茶屋街」は、「茶屋様式」と呼ばれる町家が集積し、他の町にはない情緒を感じることができ

を踏み入れると、他の町人地にはない風情が感じられます。そんな茶屋街の一つが、野町小路交差点から少し西に位置する「にし茶屋街」です。その歴史は古く、文政3年(1820)年に、浅野川畔の「ひがし」とともに、開設が公許されたことさかのほりです。

景観美

カタログ

第24回 金沢都市美文化賞 主催 金沢都市美実行委員会



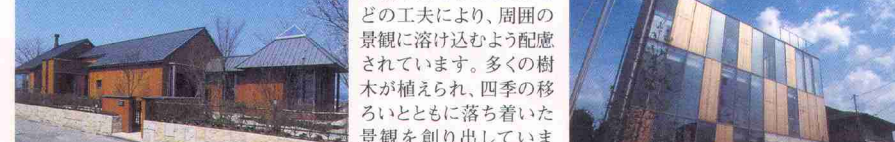
プレーゴ (片町) 若者の集う場にふさわしく、都会的な屋外空間の魅力を出す。フレンチの職人による床装飾がほどこされた楕円形のパティオは快適で開放性の高い商業空間を創り出しています。



耕雲庵 (本多町) 名工の技術を受け継ぐ技術者によって伝統的な造りを活かした修復再生が試みられました。周囲の環境と調和し、新しい伝統の継承が感じられます。



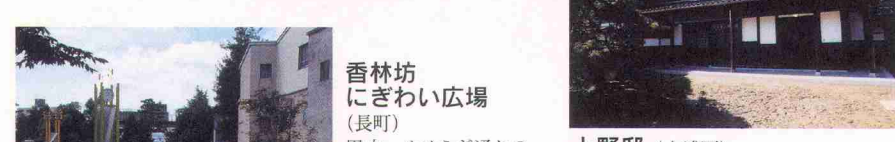
山錦楼 (寺町) 木造三階建てという大正時代の建造物の特徴と良さを活かして改修されており、古い木材の持つ優しさが周囲とよく調和しています。



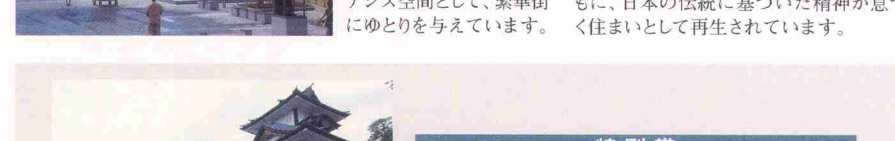
前川邸 (伏見台) 直線が構成された幾何学的な外観が鮮明。シンプルで清潔感のある存在を主張しています。



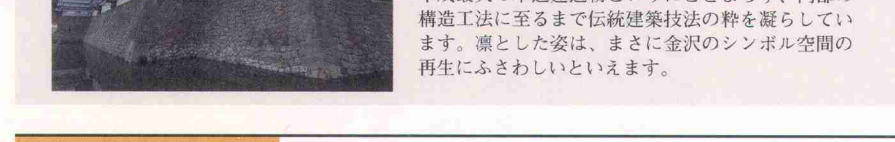
松村邸 (利原町) 建物の高さをおさえるなどの工夫により、周囲の景観に溶け込むよう配慮されています。多くの樹木が植えられ、四季の移ろいとともにも落ち着いた景観を創り出しています。



浅野川大橋詰め周辺整備 (東山) 東山界隈、浅野川付近の情緒ある周辺環境にうまく調和しています。特に橋場町バス停は和風の中にも現代的な要素をとりこみ、ベンチなどにも工夫がされています。



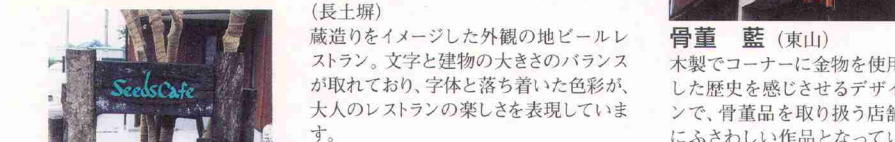
松本邸 (泉野出町) ガラスと木質パネルによって構成された建物立面が、街並みに斬新さと落ちつきを創り出しています。



香林坊にぎわい広場 (長町) 用水・せせらぎ通りの一角に造られた小広場。ミニイベントの場や憩いのオアシス空間として、繁華街にゆとりを与えています。



上野邸 (大浦町) 切妻屋根が印象的な金沢の典型的な農家建築の形を残しており、現代の機能とともに、日本の伝統に基づいた精神が息づく住まいとして再生されています。



特別賞 菱櫓・五十間長屋・橋爪門縁檜 (丸の内) 平成最大の木造建造物というにとどまらず、内部の構造工法に至るまで伝統建築技法の粋を凝らしています。蕭とした姿は、まさに金沢のシンボル空間の再生にふさわしいといえます。



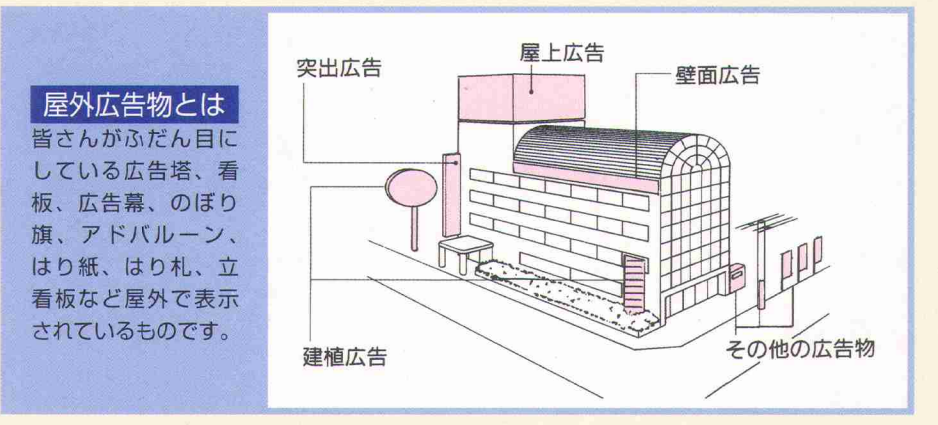
中村酒造(株) (金沢ブルフリーガーデン) (長土町) 織造りをイメージした外観の地ビールレストラン。文字と建物の大きさのバランスが取れており、字体と落ち着いた色彩が、大人のレストランの楽しさを表現しています。

Seeds Cafe (桜田町) 植え込みの中に自然木の柱を組み合わせ、自然の感じと木の暖かさがでています。オープンカフェのサインとしても良くデザインされています。

(株)板屋 (尾山町) 金沢の老舗和菓子店の玄関。繊細な直線によるモダンなフレームと看板が色彩とともに調和し、のれんと共に老舗のイメージを表しています。

センスある屋外広告物で美しい都市景観を

店頭や街角で見かけるセンスある美しい看板や広告塔などは、付近の景観を引き立たせます。逆にけばけばしい色の広告や、デザインの悪い大きすぎる広告は付近の景観を壊してしまいます。この機会に、みなさんも屋外広告物に対する関心を深めましょう。



禁止地域

まちなみや自然の美しさを守り、歩行者や自動車の安全を確保するため、原則として広告物の表示ができない地域です。



ただし、自家広告物や案内図板など必要性の高い広告物は、一定の規格内であれば表示することができます。地域の特性や土地利用の状況により、第1種から第6種禁止地域に分かれています。

許可地域

禁止地域以外は許可地域です。原則として、あらかじめ広告物を表示するための許可を受ける必要があります。一定の規格、許可の基準に適合しなければなりません。

許可申請・手数料が必要

屋外広告物を表示する場合は、あらかじめ許可申請をする必要があり、条目で定められた手数料がかかります。

屋外広告物審査会

デザインや色彩などについて周囲の景観に配慮したものをするため、屋外広告物審査会で専門家の意見を聴き、その内容を施主の方に伝えていきます。このような審査会は、全国的にも珍しく、美しいまちなみを持つ金沢市ならではの制度といえます。

金沢市の公共サイン

金沢市が設置する公共サインについて、その素材、仕様、色彩を含めたデザインを統一することにより、一貫性を持ったわかりやすいサインを設置し、センスあるまちづくり、イメージづくりを目指しています。



おしらせ

金沢市では、伝統環境の保存と、美しいまちなみづくりを促すため、まちなみの保存や、街並みの緑化など、様々な視点から市民のみならず、事業者、歩行者、ドライバー、自転車利用者など、まちの暮らしに関心のある方々へ向けて、まちづくりの推進を企画しています。また、金沢市の景観に関する条例や取組を、ご理解していただけるよう、ホームページも開設しておりますので、ぜひご覧ください。

編集後記

今回も、新しいまちづくりのテーマにお届けしました。歴史的な風情あるまちという側面では、市民のみならず、まちづくりの推進や、新しいまちづくりの推進を促すことが重要な位置を占めています。今年は大分県「まちなみ」が発表され、金沢市が注目されることになりました。この「景観だより」が、新しいまちづくりの推進を促す一助となれば幸いです。皆様のご意見やご協力をいただきながら、生き生きとしたまちづくりの推進に取り組んでいきたいと思っております。よろしくお願いいたします。